

～ショスタコーヴィチ没後50年に寄せて～

沈黙のなかのうた——
ヴィオラとピアノが紡ぐ、祈りと記憶の音楽

2025年
9月15日(月祝)

開場 14:30/開演 15:00

入場料:会員4,500円(座席指定可)/
一般5,000円/学生2,500円(全席自由席)

<プログラム>

G.フォーレ:

夢のあとに Op.7-1

9月の森で Op.85-1

歌曲集「閉ざされた庭」Op.106

「イヴの歌」より 楽園 Op.95-1

D.ショスタコーヴィチ:ヴィオラとピアノのためのソナタ Op.147

*やむを得ない事情により日時・内容等の変更、中止等があります。

田原綾子 &
實川風
デュオリサイタル
Piano & Viola

©Hisashi Morifuji

8
ANNIVERSARY

123
Shibuya Mitake Salon (vol.184)



田原 綾子 & 實川 風

デュオリサイタル ～ショスタコーヴィチ没後50年に寄せて～



2025年9月15日(月祝) 開場14:30/開演15:00

【入場料】

会員 4,500円(座席指定可)/一般 5,000円/学生 2,500円(全席自由席)

沈黙のなかのうた—— ヴィオラとピアノが紡ぐ、祈りと記憶の音楽

2025年、ドミートリイ・ショスタコーヴィチ没後50年。
最晩年に遺された《ヴィオラとピアノのためのソナタ》Op.147を軸に、ひとつの静かな対話が始まる。
そこに寄り添うように置かれたのは、ガブリエル・フォーレの晩年の歌曲たち。
《夢のあとに》《9月の森で》《楽園》《閉じられた庭》—— いずれも、言葉では語り尽くせない感情が宿る詩的な作品である。
言葉の奥にひそむ“声なき声”が、まるで空気の中を漂う光のように、音楽として立ち上がる。
歌詞を持たぬヴィオラでそれらを奏でるという挑戦に、田原綾子は迷いなく身を委ねる。
中低音域に宿るヴィオラ特有の温もりが、言葉では語り尽くせない感情の翳を、詩のように、あるいは祈りのように紡いでいく。

田原のヴィオラには、楽器への深い信頼と音楽への愛がにじむ。
「ヴィオラが好きでたまらない」と語るその姿勢は、演奏の一つひとつ、そしてあの笑顔にも自然に表れている。
技巧のための音ではない。
何かを説明するための音でもない。
そこにあるのは、ただ“歌う”ということへの純粋なよろこびだ。
彼女の音が鳴ると、空間がふっと柔らかくなる。
それはきっと、楽器を心から愛し抜く者だけが奏でられる、特別な「うた」なのだ。

後半に置かれたショスタコーヴィチの《ヴィオラとピアノのためのソナタ》Op.147は、まさに作曲者の絶筆。
亡くなる数週間前に完成されたこの作品には、死の予感とともに、なお音楽への執着が静かに刻まれている。
第3楽章では、ベートーヴェンの《月光ソナタ》がひそやかに引用される。
それは過去への回帰なのか、それとも永遠への入口なのか—— 音楽だけが、静かにその答えを知っている。

實川風のピアノは、そうした音楽の深層にごく自然に寄り添う。
自己主張ではなく、音楽への献身。

鋭い知性と繊細な感性、美への誠実な姿勢を併せ持ちながら、流れる清流のように音と音のあいだをつなぎ、時には“沈黙そのもの”をも音楽へと変える。
フォーレの淡い和声がふと沈み込む瞬間、ショスタコーヴィチの旋律が断絶と再生を語る時、そのすべてを實川のタッチが確かに受け止めてゆく。
そしてあらためて気づかされる。
ヴィオラとピアノ—— この二つの楽器の対話が、どれほど繊細に、どれほど深く人の心の奥にまで降りていけるのかということ。
目を奪うような華やかさも、大きく揺さぶるような激情も、ここにはない。
がしかし、だからこそ響くものがある。
音楽が音楽であること、その根源にある、静かで凛とした美しさ。
その核心に触れるひとときとなるだろう。

(渋谷美竹サロン)

田原 綾子 (Ayako TAHARA) Viola
第11回東京音楽コンクール、第9回ルーマニア国際音楽コンクール優勝。
桐朋学園大学を卒業後、パリ・エコール・ノルマル音楽院、桐朋学園大学大学院、デトモルト音楽大学をそれぞれ最高得点で修了。
これまでに藤原浜雄、岡田伸夫、ブルーノ・パスキエ、ファイト・ヘルテンシュタインの各氏に師事。
国内外でソリサイタルが定期的に行われており、ソリストとして読響、都響、東響、東京フィル等と共演。
室内楽奏者としても国内外の著名なアーティストと多数共演し、オーケストラの客演首席も務めるなど、活躍の幅を広げている。
現代音楽にも意欲的に取り組み、新作委嘱や世界、日本初演も数多い。
第23回ホテルオークラ音楽賞受賞。

實川 風 (Kaoru JITSUKAWA) Piano
2015年ロン・ティボー国際コンクール第3位(1位なし)、最優秀リサイタル賞、最優秀新曲賞。2016年カラーリョ国際ピアノコンクールにて第1位。
上海音楽祭、ソウル国際音楽祭・ノアン・ショパンナイト(フランス)・アルソノーレ(オーストリア)などの音楽祭に出演。
近年はバッハを演奏活動の中心に据え、2023年に「バッハ・アルバム」をキングレコードよりリリース。更なる研究のためにチェンバロ演奏にも取り組んでいる。
東京藝術大学を首席で卒業し、同大学大学院(修士課程)修了。グラーズ芸術大学ポストグラデュエート修了。
2024年4月より、東京藝術大学においてピアノ科専任講師を務める。



世界に羽ばたく才能あふれる
トップアーティストが続々と集結。

日本のトップクラスの演奏家たちが、
こだわり抜いた価値ある企画をお届けしていきます。
渋谷美竹サロン(美竹清花さろん)が追求する
“本物の音楽”は、演奏者と参加者とわたしたちの、
三位一体の努力と対話から生まれます。

大好評につき
サロン・メンバーズ
追加募集中!



誕生。 クラシック音楽サロン、 宮益坂、 渋谷駅 徒歩2分



●お問い合わせ

株式会社 ILA 渋谷美竹サロン (美竹清花さろん)
東京都渋谷区渋谷 1-12-8 (〒150-0002)
☎ 03-6452-6711 (平日 10:00-18:00)
070-2168-8484 (繋がりにくい場合)
Fax 03 (3409) 0188

公式Webサイト

